

## 丹生都比売神社の歴史

神社の正確な起源は遠い歳月に失われ、今ではもう分かりませんが、丹生都比売神社は日本でもっとも古い神社のひとつとされています。非常に古い歳時記である『播磨国風土記』によると、応神天皇が4世紀にこの地域を神々に捧げました。神社には四神が祀られており、主祭神は神道で最も重要な神である天照大神（the Sun goddess）の妹の丹生都比売大神です。丹生都比売大神は、もともとは機織りと関連付けられていましたが、13世紀により勇ましいイメージを持たれるようになりました。

1274年、モンゴルによる日本侵攻の最初の試みは、突然の激しい台風のため失敗におわりました。しかし、幕府は二度目の襲来を強く恐れ、すべての主要な神社に使者を送り、神の加護を求めました。

伝説によると、この神社は1281年の二度目のモンゴル襲来の前に神託を授かりました。丹生都比売神社の四神は一羽の大鴉を伴って侵略者たちが上陸していた九州に先陣を切って飛びました。大鴉は羽ばたいて神風を起こし、モンゴルの船団を蹴散らしました。モンゴルの襲来は再び台風によって退却させられ、幕府はこの四神のはたらきを讃えて、この神社を紀伊国（現在の和歌山）の一宮に定めました。

丹生都比売神社と高野山のつながりは、さらに古い時代にさかのぼります。別の伝説によると、丹生都比売大神は高野山を開いた空海という僧（諡号 弘法大師、774–835）が仏教の密教を広める場所をつくるために、彼に自分の神聖な土地の一部を与えました。弘法大師が高野山を開くにあたって最初に行ったのは、丹生都比売大神の寛大さに感謝を捧げるための大きな神社を建てることでした。

仏教と神道は、6世紀に仏教が日本に伝えられた後千年以上の間平和に共存していたため、このような宗教間の協力はよくみられることでした。今日でも、町石道（Stone Marker Road）という参詣道を通して高野山に登ろうとする人々は、丹生都比売神社に参拝します。

この神社は、「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部として2004年にユネスコ世界遺産に登録されました。